

第5学年 国語科学習指導案

令和4年6月8日(水)

5年 組(男子 名 女子 名 計 名)

授業者 伊集 旭寿

1 単元名 「資料を使って調べたことを報告する文章を書こう」

2 教材名 「環境問題について報告しよう」 (出典：東京書籍 『新しい国語 5年』)

3 単元目標

(1) 原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。

【知識及び技能(2)ア】

(2) 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。

【思考力、判断力、表現力等B(1)イ】

(3) 引用したり図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。

【思考力、判断力、表現力等B(1)エ】

(4) 文章全体の構成や展開を考え、引用したり図表やグラフなどを用いたりして、書き表し方を工夫して調べたことを報告する文章を書こうとする。

【学びに向かう力、人間性等】

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①原因と結果など情報と情報との関係について理解し、文章の中で使っている。 【(2)ア】	①「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。【B(1)イ】 ②「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。【B(1)エ】	①文章全体の構成や展開を考え、引用したり図表やグラフなどを用いたりして、書き表し方を工夫して調べたことを報告する文章を書こうとしている。

5 単元設定の理由

(1) 教材について

本単元の重点指導事項は、学習指導要領における【思考力、判断力、表現力等】の「B書くこと」(1)イ「筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。」エ「引用したり図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」である。イの「筋道の通った」は学年目標の(2)「筋道立てて考える力」の育成を受けて今回の改訂で明記された部分でもある。また、エは第4学年までにはない指導事項であり、引用や図表を用いることは自分の考えや表現の根拠となり、それを活用することで、より相手に伝わりやすい文章になる。

本単元では、環境問題について調べ、それに関係する資料を収集し、収集した資料を活用して報告する文章を書くという活動を設定した。そして、その活動を通して、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えて書く力を身につけることを目標とした。

教科書教材で例として挙げられている環境問題は地球温暖化であるが、環境問題には他にも様々な問題がある。ここでは、児童がより身近に感じやすいテーマに絞り、調べ学習を進めていく。調べる手段としては、本やインターネット等を活用するが、児童がいつでも調べられるようにあらかじめテーマに合った本を集め、並行読書ができるようにする。

(2) 児童について

本学級は少人数の学級であるため、児童一人一人の関わり合いが多く、男女共に仲の良い明るい学級である。児童はこれまでに、新聞やポスターを題材として、図表やグラフ、写真などの資料が用いられている様々な形式の文章について学習している。しかしながら、複数の資料から読み取った情報を相互に関係付けたりしながら必要な情報を読み取ったうえで、それらを的確に用いて文章を書く力を十分に身につけているとは言えない。

本学級の児童に、国語に対するアンケートをとった結果、「国語の学習は好きですか」の質問に対して「とても好き・好き」と回答した児童は75%と国語に対しての意欲は高いことがわかった。一方で、「文章や自分の考えを書くことは好きですか」に対しては、「あまり好きではない・きらい」と回答した児童は45%であった。理由は、『どのように書けばいいのかわからない。』や『どのようにしたら、相手に伝わるのか考えるのが苦手だから。』との回答だった。このことから、【書くこと】に対する苦手意識があり、書き表す工夫がわからない児童が半数程いることが伺える。この結果を受けて、児童が本単元の中で調べたことを報告するために資料を活用して文章を書き表す工夫や論の進め方などを習得し、今後の学習でもいかせるような学習を設定していきたいと考えた。

(3) 指導について

調べたことを報告する文章を書くために、まず様々な情報を収集して、自分が調べたいこと（事実）について理解していく必要がある。また、調べて分かったことが増えていくにつれ、それを整理することも後の書く活動に向けて重要になってくる。さらに、単元名に「資料を使って」とあるように、調べたことの報告だけでなく、図や表、文の引用などの資料を活用することも言語活動にある。児童は、自分の報告したいことや考えの根拠となる資料を取捨選択し、その資料を踏まえて構成を考えたり整えたりして書く力が必要になってくると考える。

このように、単元の中で「情報収集」「資料の取捨選択」「構成の検討」「考えの形成」「考えの記述」など様々な活動が設定されているが、これらを切り離さずに進めていくには手立てが必要であると考えた。そこで、「視点を明確にした振り返り」を単元を通して計画的に位置付け、取捨選択した資料が書き表したい内容の根拠になっているか、文章の書き表し方は相手に伝わる構成になっているか等を確認できるようにする。また、振り返りの後には「交流活動」を行い、友達の意見等も取り入れられるようにする。交流活動を通して児童自身が資料を見直したり内容の検討をしたりして、より相手に伝わる書き表し方になっているかを確認・修正しながら文章をより良くしていけるようにする。

6 単元の指導と評価計画

時	学習目標	○学習活動	・指導上の留意点	評価規準 (評価方法等)
第一次	1 ・モデル文などから、学習課題を確認し、地域の方に向けて発信する文章を書くという学習の見通しを持つことができる。 ・様々な資料の効果についてわかる。	○報告する文章を書く学習に向けての学習課題を設定し、身に付けたい力を確認し、学習の見通しをもつ。 ○書く目的や相手を確認する。 ○2つのモデル文から、資料の効果について考える。	・町役場や公民館に掲示し、発信することを伝え、相手や目的意識を持ち活動に取り組めるようにする。 ・資料がある文章とない文章を対比させることにより、資料の効果について考えられるようにする。	【知・技①】 原因と結果など情報と情報との関係について理解している。（発言・調査メモ・思考ツール・行動観察・タブレット写真データ）

			並行読書	○様々な分野から自分が興味のある分野を選ぶために資料を読む。	・基本的なテーマを提示し、児童自身が興味のある分野を探れるようにする。	
第二次	2	・基本的なテーマから、自分が興味のある分野を選ぶことができる。 ・選んだ内容について調べることができる。 ・資料の出典のメモ(記録)の取り方がわかる。	自分が調べたい環境問題についての本を読む	○様々な環境問題から、自分の調べる分野を決定する。 ○調べて分かったことを調査メモや思考ツールに記入する。	・引用する文章や資料は出典をはっきりさせておくよう指導する。(タブレットの活用) ・どんなことを調べればいいのかを考えさせ、それが文章構成にもつながることに気付けるようにする。	
				○知りたいことに関する情報や資料を、本やインターネットを活用して集める。	・授業内だけでは集められない資料などを、本やインターネットなどから収集する時間を設ける。	
	3	・複数の資料から自分の考えに合った資料はどれか考え、取捨選択できる。 ・自分の活動を振り返り、その振り返りを基に友達と<u>交流</u>し、考えを生かすことができる。		○より良い書き表し方のために、複数の資料(図・グラフ・表・写真)からどれが効果的か考える。 ○自分の収集した資料はどれが効果的か、取捨選択したものを振り返る。 ○振り返りを基に友達と <u>交流</u> し、資料の見直しをする。	・モデル文と複数の資料を対応させて、実際に取捨選択する方法を全体で確かめる。 ・「取捨選択した資料が書き表したい内容の根拠になっているか」視点を明確にして振り返らせ、友達と確認するように指導する。 ・思考ツールを活用して自分の考えが可視化されるようにする。	【知・技①】 原因と結果など情報と情報との関係について理解して文章の中で使っている。 (思考ツール・文章) 【思・判・表①】 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(発言・思考ツール・文章) 【思・判・表②】 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 (思考ツール・行動観
	4	・前時で確認したことを生かし、関連資料の再収集をすることができる。		○前時を受けて、資料収集の修正または再収集を行う。 ○資料の読み方(わかること)を再度確認する。	・資料からわかることを書き表すことが、報告する文章に生かされることを気付けるように指導する。	
	5	・調べたことの報告の順序と資料の提示の順序や配置などを思考ツールにまとめることができる。		○調べたことを読み手に報告するために、文章全体の構成をどのようにするのかを考え、思考ツールに整理する。	・バッドモデルを掲示することで、「はじめ」「中」「終わり」の各部分に書く内容の大体と適切な資料の配置の仕方について気付けるようにする。 ・内容のキーワードになる言葉を箇条書きで簡単に書けるように指導する。	

第三次	6	・ 交流活動 を通して、文章全体の構成や展開について見直すことができる。	○自分の思考ツールを見直し、相手に伝わる文章構成や資料の提示になっているか友達と 交流 し確かめる。 ○文章全体の構成や展開について見直す。	・ 視点を明確にして振り返り、互いに評価し合うことで、読み手に伝わる構成や資料の提示になっているかを確認できるようにする。 ・ 適切な接続語の確認も合わせて確認できるようにする。	察・文章) 【態度①】 文章全体の構成や展開を考え、引用したり図表やグラフなどを用いたりして、書き表し方を工夫して報告する文章を書こうとしている。(行動観察・文章)
	7	・ 自分の考えと関連付けられた資料を用いて報告する文章を書くことができる。	○取捨選択した資料と思考ツールに基づいて報告する文章を書く。 ○視点に沿って振り返り、推敲する。	・ 書き表し方の工夫などについてチェックする視点を提示し、視点に沿って書き表したり推敲したりできるようにする。	
	8	・ 互いの文章を読み、良い点を伝え合い、書き表し方の工夫について振り返ることができる。	○文章を読み合い、良い点を共有して学習全体を振り返る。 ○報告する文章を書くために、どのように書き表し方を工夫したのかを振り返る。	・ 書き表し方の良さを伝え合い、自分の文章の良い点に気付けるようにする。	

(1) 本時の目標(3 / 8時)

- ・ 複数の資料から書き表したい内容に合った資料はどれか考え、取捨選択できる。
- ・ 学習活動を振り返り、その振り返りをもとに友達と交流し、考えを確かめ合うことができる。

(2) 本時の展開

過程	○学習活動 ・ 内容 □主な発問等	◇指導上の留意点 C：予想される児童の反応	【評価規準】 (方法)
導入 5分	○振り返りシートを活用して本時の学習の見通しを持つ。 ○本時のめあてを立てる。	◇視点を明確にし、本時がどの振り返りの視点項目と関わってくるのかを確かめる。	
	めあて 自分の書き表したい内容に合った資料を選び、それを交流して確かめ合おう。		
展開 35分	○教師のモデル文を例に全体で確認する。 □調べた内容に合う資料を選ぶとすると、どちらが合いそうですか。 ○児童自身の調べたことと資料を照らし合わせて、確認する。 ・ タブレットで記録した資料を確認する。	◇複数の資料から内容により適した資料はどれか、理由も合わせて確認する。 C：一目で分かりやすい図は、Aの図だと思います。 C：問題点の様子が伝わりやすいのはBの図だと思います。 ◇振り返りの視点を与え、その視点に沿って資料の取捨選択ができるようにする。 C：私は、〇〇の説明をしたいから、この図を使った方が相手に分かりやすくなりそうだな。	【思・判・表②】 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 (思考ツール・行動観察)

	○自分の選んだ資料が内容に合っているか、交流を通して見直す。 ・同じテーマの者同士で視点に沿って考えを伝え合う。	◇相手の説明と資料が合っているか、分かりやすいか等を確認し合えるように、やりとりの例を掲示する。 ◇指摘が注意のみにならないように伝える。	【態度①】 引用したり図表やグラフなどを用いたりして、書き表し方を工夫しようとしている。(思考ツール・行動観察)
終末5分	○振り返りを書く □資料はどのように選ぶと良かったですか。 □交流して良かったなと思うことはありましたか。	◇めあてに沿って振り返るように伝える。 C：自分では良いと思った資料だったけど〇〇さんに見てもらって、もっと良い資料の方が良さそうだったので、次はそれを探したい。	

(4) 板書計画

9	8	7	6	5	4	3	2	1		
振り返り	適切な接続語を使って書いている。	資料は一目でわかりやすくなっている。	図や表があることで説明がわかりやすくなっている。	資料から分かることと、考えたことが書けている。	「問題に対する対策」が書けている。	「問題が起こる原因」が書けている。	「何が問題なのか」が書けている。	調べて報告したいことが明確になっている。	振り返りの視点「◎○△」	
									／	／

② 問題…雨のふり方が激しくなる↓災害↓人にも被害

・報告したいことに、より合っている

図C

図D

③ 原因…二酸化炭素の増加「まるで毛布のよう」

・一目で見やすい
・内容に合っていて説明しやすい

↓

図A

図B

① 資料の選び方で分かったことや気づいたこと。

② 交流をして、気づいたことや良かったこと。

ふりかえり

めあて

自分の書き表したい内容に合った資料を選び、それを交流して確かめ合おう。

資料を使って、調べたことを報告する文章を書こう